

平成 11 年 4 月 21 日

“10 年を超える再生自転車の海外譲与活動に感謝”

I P P F（国際家族計画連盟）会長、豊島区長を表敬訪問

14 日（金）午後、I P P F（国際家族計画連盟）会長アンジェラ・ゴマス・デ・モコヨン氏、同財務担当理事ゲイ・スー・ポー氏、並びに同事務局長インガー・ブリュッケマン氏が、ムコーバ（再生自転車海外譲与自治体連絡会 会長:豊島区長、事務局:豊島区交通安全課）の活動に謝意を表するため、高野之夫豊島区長を訪問した。

I P P F は、人種、宗教、政治体制の枠を越えて、家族計画を広く普及することを目的として 1952 年に設立された国際的 N G O（民間公益団体）で、加盟国は日本を含む 152 ヶ国に及ぶ。家族計画に関する情報、経験、技術、必要物資（避妊具・薬・医療器材・教材・車輛等）の提供活動等を行っている。

豊島区は昭和 63 年（1988）、他の自治体に先駆け、駅前などに放置された自転車で引き取りてののないものを再生して、375 台をマレーシア、ザンビア等へ贈った。これを契機に翌年（1989）には、豊島区の呼びかけにより、6 自治体とジョイセフ（J O I C F P 家族計画国際協力財団）をもってムコーバが発足した（ムコーバ概要については別紙資料）。以降毎年アジア、アフリカ、中南米諸国への再生自転車の譲与を行っており、平成 9 年からは、より多くの自転車の譲与と現地での組み立て技術の向上を図るために、分解した自転車の譲与も始めた（平成 9 年度～11 年度で 4,200 台）。

譲与された自転車は、I P P F やジョイセフに加盟する各国の家族計画協会、国連人口基金等を経由して開発途上国へ送られている。現地では、家族計画や栄養改善等の母子保健、地域環境改善等に活躍するフィールドワーカーの貴重な足となっており、「命の足」「動く薬局」「人力救急車」とも呼ばれている。

譲与された自転車は、平成 11 年度末までに 72 ヶ国 30,775 台に達しており（そのうち豊島区譲与は 6,226 台）、今回の表敬訪問は、開発途上国への橋渡し役となっている I P P F が、このようなムコーバの活動に感謝し、会長である豊島区長に謝意を表すため行われたものだ。

*

*

区長と面会したアンジェラ会長らは、送られた自転車が開発途上国での保健事業などに大変役立っていることを報告するとともに、「自治体による海外への協力は 1、2 年で終わってしまうことが多い。そうした中で 10 年以上継続し、しかも草の根の広がりを見せるム

コーバの活動は、特筆すべきモデルケースといえる」と述べ、深い謝意を表した。また、自転車を分解して送ることについては、組立技術の習得がもたらす経済効果にも触れ、活動の柔軟性を高く評価した。さらに、開発途上国への協力問題一般にも触れ「大都市の市長、区長が集まる機会を設け、開発途上国に対しどのような協力ができるかアイデアを出し合って欲しい」と要望を述べた。

問い合わせ 交通安全課長